

御柱は感動



清水町 有賀 守

私が初めて御柱に参加したのは、昭和五十六年の上社でのことと記憶している。大勢で一本の巨木を曳く時、曳子の息が合わないとも木は動かず、息が合うと一気に動き出す。動いた時の感動は、祭りに参加した人は全て感じていると思う。また、それがあるから今まで続いてきているのではないだろうか。

私は平成四年の頃から役をいただいているが、元綱の経験しかない。綱を右へ押し、左へ押し返してと一日中綱につかまっているが、動いて行く時の感動は振動として身体に伝わってくる。

前回は元綱長を担当させていただきましたが、その感動は柱が動く時の音と振動として伝わってきます。祭りに携わった人や見る人は、それぞれの立場でその感じ方は違うと思いますが、力が一つになった時の達成感は何ものにも代えがたく、それぞれの記憶に残っていくものである。

昨今、若い人の中に祭りには興味がないという人もいますが、非常に残念なことです。祭りを通して多くの人と知り合い、共に苦勞し、祭りが終わった時には、皆で互いに手を叩き肩を抱き合せて歓喜します。そんな経験ができるのも、この御柱祭ならではではないでしょうか。

御柱が山から切り出され、柵木場で木造りされ、山出し、里曳き、建御柱を終えるまでには、多くの仕事があり役割があります。そこで多くの人たちの間で技術の伝承が行われ、人間社会の縦横を教え合います。若い人たちにとっては、人間形成の上で大変役立つのではないのでしょうか。

また、役についた人はそれぞれ

の立場で、都合の良い妥協をするのではなく、納得のいく行動をすることが、若者に感動を与え、御柱を後世に伝承していくことの基本となるのではないのでしょうか。

御柱祭という奇祭が、見る人にも参加した人にも感動と達成感を与えつづけ、未来永劫続いていくことを御祈念申し上げます。



山出しのおもてなし

家族の協力、お願いだ〜！

萩倉 野村 智子



私の住む萩倉は、御柱山出しのメインストリートです。前回は、三日間で約百二十人のお客さんが来ました。この二倍から三倍のお客さんが来る家もあると思います。

そこで、おもてなしの料理に毎回頭を悩ませますが、ここ何回かは手作りの料理ばかりではなく、いくつかの業者の試食会に顔を出して三日間分の料理を注文するようにしたので、とても楽になりました。

それでも、汁物、漬物、天寄せ、揚げ物等手作りする物もあるので、地区の婦人会や友達に

いろいろなレシピを教えてください助かっています。

一ヶ月ぐらい前から、仕事の合間に、お皿などの使う食器を物置から出して確認します。そして、飲み物、消耗品、食材等の買い物を段々に行い、準備をしていきます。

前日は、狭い我家の部屋を片付けて広くし、台を並べて、座布団を敷き、料理の下ごしらえをします。

いよいよ当日になると、朝六時には、車が通行止めになる関係で、まだ暗い朝四時から業者に頼んだ、お刺身のオードブル等が配達されたり、地区内の指定された場所に取りに行ったりと、目の回るような忙しさ

です。それでも、大平に向かって歩いて行く活気ある氏子の方たちの姿を見て元気をもらい、さあ頑張ろうと思うのです。お客さんは、午前十時頃から午後四時ぐらいいまで入れ替わり立ち替わり家の中や庭にやって来て、その度にお皿、コップ、箸を出したり片付けたりと、目まぐるしい三日間が続く訳です。という訳で接待に追われ御柱の曳行は、家の前に来た時にちょっと見るか、お客さんが帰られた後にテレビで見るだけです。

お客さんの中には、疲れと酔いで寝てしまう方もいて、夕方通行止めが解除されてから駅まで送って行ったこともありました。

山出しの最中、不足品の買い出しは、もっぱら朝六時前までか夜になるので二十四時間営業のお店があるのには助かります。後日、お礼の手紙や電話をいただいたり、お料理が美味しかったと言われると苦勞が報われた気がします。

間近にせまった山出し三日間を乗り切るために健康に気を付け、家族で協力をして、心を込めておもてなしをしたいと思います。

